

令和元年度 第1回ナセBA運営協議会議事録

1. 開催日時 令和元年7月26日(金) 午後3時～午後5時

2. 開催場所 ナセBA 1階 体験学習室

3. 出席者

(委員)

我妻 仁(我妻社会保険労務士事務所・協議会会長)

北口 己津子(米沢女子短期大学)

太田 和広(米沢市立関根小学校校長)

佐藤 繁(米沢市芸術文化協会)

津山 真由美(中部コミュニティセンター)

小嶋 千夏(主婦)

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

種村信次(理事長)、岸順一(副理事長兼図書館長)、青木昭博(主幹)、遠藤朋香(図書業務担当)、齊藤かおり(図書業務担当)、福石敏史(図書業務担当)、石黒志保(郷土資料業務担当)、川橋勇人(総務企画担当)

欠席者

加藤 公一(米沢市第三中学校校長)

佐藤 正(米沢工業高等学校校長)

大類 雅子(米沢市芸術文化協会)

白田 静雄(地元商店街)

4.開会(事務局)

5.あいさつ(理事長)

この度はお忙しいところお集まりいただき、また日頃よりナセBAに対しご指導いただき、厚く御礼申し上げます。

私も昨年理事長に就任し、一年間色々と勉強させていただいたが、その中で伝国の杜・ナセBA両方の運営に感じるところもあり、今年度の運営方針に「また、職員はそれぞれの職務において協力して研鑽に努め、自らの知識能力、及びチームワーク力を高めて質の高いサービスを提供し、利用者の満足に応える施設をめざす。」を付け加えた。

おかげさまで、ナセ BA については職員の努力により、皆様にとってより良い図書館を目指し、これまでになかった町の施設としての働きを意識した運営をしていると思う。令和になってからもなお一層努力していくので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

また、今後の新たな動きなどについても、今回の会の中で報告していきたい。

米沢に誇るナセ BA の価値を市民の皆様理解してもらい、町づくりにおける役割をしっかりと果たしていきたい。

6.議事

1.報告

1) 平成 30 年度 公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営内部評価 (報告)

(小嶋委員) 昨年度の運営協議会の際、来館者の推移について、減少傾向にある来館者を増やすための活動などが報告されたが、その後はどのような状況となっているか。

(事務局) これについては来館者の数が落ち着きつつある、という見方で考えている。一方、学習室の利用は順調に増加しており、学生の皆様を中心にナセ BA における快適な学習環境の存在は定着しつつあると思われる。ギャラリーに関しては、展示内容により変化するため、一概に評価はできないと考えている。

全体的にみると、これまでは斬新なデザインの建物そのものを見ることを目的とした来館者も多かったが、時間がたち当館を実際に利用しに来られる方の数として表れてきていると思われる。今後はリピーター、または新たな利用者をいかに増やしていくかが課題といえる。

2) 令和元年度市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの主な事業について (報告)

(小嶋委員) 子どもの読書活動推進に関する事業に関して、学童クラブとの連携事業はあるか。

(事務局) 自動車文庫車「アタゴオル」巡回先にくつか学童クラブが存在しており、月一回の巡回で貸し出しを行っているほか、上郷コミュニティセンターにて開催される「元気っ子 絵本まつり」への絵本の提供などを行っている。また、学童からの要望に応じた内容の資料を随時準備して巡回する、といった活動も行っている。

(小嶋委員) 南部小学校の例では、約 6 割強が学童クラブを利用しており、学校と家庭の間に学童という時間がある。忙しい保護者の場合図書館に子どもを連れて行くのが難しい環境にあり、学童クラブにいる間の本と過ごす時間が大事ではないかと考えており、学童クラブの連携というものも今後一つのポイントになっていくと思う。

2.ご意見・ご提言

1) 図書館サービスについて（報告）

2) ナセ BA 利用者増にむけた取り組みについて（報告）

（佐藤委員） 図書館事業については、職員の努力や新事業の中で利用者数の維持、増加が予想され、非常に良いと感じた。高校生サポーターや興譲館高校の探究型学習に伴うコラボレーションなど、若い世代の活用が増えている点についても期待している。ギャラリー事業については、大変良い企画を実施していただき、入館者数も目標を上回る結果が出ている。今後も努力して多くの方々に来てもらえるようにしてほしい。伝国の杜での自己評価において、リニューアルに向けての課題が具体化できていない、という箇所があったが、長年続けていく中では同じような展示が重なり、新鮮味が薄れていくということもあり得る。そうした中で探究的な、深く鑑賞したくなる展示などができればよいのではないかと考えている。

障がい者に対する配慮については、今後オリンピックなどもあり施設の対応に市民の目が注がれていくと思う。具体的な対応を行い、広く市民が利用できる環境を整えてほしい。

（小嶋委員） 多岐にわたる工夫や皆さんの努力がみられ、素晴らしいと感じた。図書館利用者数に関しても、職員の努力が結果として現れたと感じている。今後、利用者のリピート率上昇を目指すにあたり、リピーターの数値化ができれば、対策も立てやすいと思うが、内部評価の中には項目として存在しているか。

（事務局） 現状では入っていない。

（小嶋委員） 今後そうした項目があれば、アイデアなども出していけると思うので、ぜひ検討してほしい。

（津山委員） 日頃より、一利用者としてお世話になっている。ナセ BA では様々な講座を行っており、自身も楽しんで参加させていただいている。特に英語多読については70代の母も楽しんで行っており、高齢者世代も楽しめる試みであると感じた。小さい子に対しても、こうしたもので習慣付けを行うことで英語への苦手意識をなくせると考えており、ナセ BA における目玉企画の一つであると感じている。こうしたものの PR 活動について、図書館だよりやホームページ、SNS などを見ると申し込み方法などについて周知がまだ足りていないと感じている。図書館は幅広い層の方が利用するため、広報物で長文を避けるなど工夫ができるのではないと思う。事業のタイトルについても、一目見て内容を理解できるものとしてもいいと思う。周知については、経験上直接利用者一人一人への声かけなども効果的であると感じている。

また、図書館内にコンシェルジュ制度などを導入し、職員が担当分野につい

てのネームなどをつけていると質問がしやすく、いいのではないか。

会議に際し取りまとめた一般の方からの意見として、やむを得ず携帯が鳴った際、急を要する場合が多く、通話やメールが可能な場所があるとよいのではないか、という意見があった。またギャラリーについて、展示期間に空白があるため、そうしたときに行くと何もやっておらず残念に思う。町の中心部の施設であるから、常に華やいだ場所であってほしい、という意見も受けている。職員の服装に関してはもう少しファッショナブルな制服があってもいいのでは、という意見もあった。

(事務局) 申し込みについては、カウンターなどで直接案内を行っている。しかし、それぞれの企画でどういう方なら興味を示すかなどを見極めるのは難しい。コンシェルジュ制度については、現在書架整理において分野ごとに担当制をとっているため、その中で研鑽し、専門性を出していければと思っている。英語多読などでは、臨時職員の中に自ら勉強したいと担当を申し出る職員もおり、それぞれの職員が得意な分野における中心的な役割を果たしていければと期待している。ギャラリーについて、貸館を主とする都合上、すべての空白期間を埋めていくのは難しいと感じている。

(太田委員) 現在の子供たちはメディア依存と呼ばれており、ゲームやインターネットに目が行きがちである。そのような中で、小学校教員は何とかして本の世界に興味を持ってほしいと思っているが、図書館部会においては市立図書館より2年続きで様々な角度からご指導いただき、ありがたく思っている。今回も館長を中心にスタンプラリーを企画いただき、小学校図書室と市立米沢図書館が連携した事業として大いに期待している。英語多読についても子供たちに紹介し、ナセBAに足を運んでほしいと考えている。今回、BCS賞*をナセBAが受賞したことについても、多くの事業を行ってきた功績によるものと感じている。

一方、自己評価における時間外労働や多忙感の縮減の項目が低く、一生懸命に事業を行うことと表裏一体な面もあり、難しいものと感じている。

*BCS賞： 日本建設業連合会による「わが国の良好な建築資産の創出を図り、文化の進展と地球環境保全を寄与することを目的とする国内の優秀な建築作品の表彰」。 選考は、建築の事業企画、計画・設計、施工、環境および建築物の運用・維持管理等に関する総合評価。

(北口委員) 配布資料について選書方針が含まれており、人・資料・企画という3本柱がしっかりとしている印象を受けた。今後、図書館としての本質をいかに明確に打ち出すかが重要だと思う。ナセBAには様々な職員がいるが、その中でも司

書の方についてはそれぞれの業務について、特集や催しなど、自分たちが行ったことを自信をもって打ち出し、業績としてより PR してほしい。

また、小中高生の調べ学習に対し、学校資料をいかに補完するか、需要の整理が必要ではないか。

授業において、ナセBAの話をする、大学生は読書通帳に興味を示すようである。成り立ちを見ていくと子供を対象としたものではあるが、一般の希望者に対し有料等で提供するような考えはあるか。

(事務局) 市へ大人向け読書通帳の導入を要請したが、財政上の理由で現在も導入されていない。有料でも欲しい、という利用者もいるが、できる限り無料で対応できないものか、今後も検討していきたい。

7.閉会（事務局）